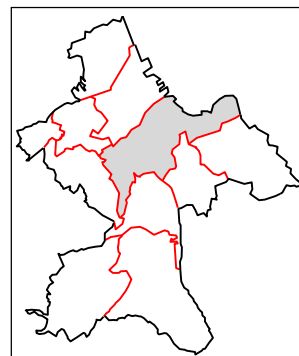


9. 旧市内

(1) 関係集落名

中居林、板橋、糠塚、売市、根城、田面木、笹子等



(2) 農業構造

①農家

農家数の推移

(単位：戸)

区分	農家数	販売農家数※1	自給的農家数※2
平成 22 年	260	97	163
平成 27 年	208	68	140
令和 2 年	163	59	104

※1 販売農家：経営耕地面積が 30a 以上又は調査期日前 1 年間における農産物販売金額が 50 万円以上の農家。

※2 自給的農家：経営耕地面積が 30a 未満で、かつ、調査期日前 1 年間における農産物販売金額が 50 万円未満の農家。

◇農林業センサスより

②耕地面積

耕地面積の推移

(単位：ha)

区分	総面積	田	畑
平成 22 年	204	114	90
平成 27 年	186	103	83
令和 2 年	182	100	82

※ 耕地：農作物の栽培を目的としている土地のことをいい、けい畔を含む。

◇八戸市調べ

③農業経営体

(a) 経営耕地面積規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

区分	経営体数	1 ha未満	1 ha以上 2 ha未満	2 ha以上 3 ha未満	3 ha以上 5 ha未満	5 ha以上
平成22年	102	77	19	6	-	-
平成27年	70	53	11	5	-	1
令和2年	48	31	10	4	1	2

※1 農業経営体：農産物の生産を行うか又は委託を受けて農作業を行い、生産又は作業に係る面積・頭数が、規定に該当する事業を行う者。

※2 経営耕地：農業経営体が経営している耕地をいい、けい畔を含む。自ら所有し耕作している耕地と、他から借りて耕作している耕地の合計。

◇農林業センサスより

(b) 農業経営組織別経営体数の推移

(単位：経営体数)

区分	販売のあった経営体数	単一経営						複合経営
		稲	野菜	果樹	花き	畜産	その他	
平成22年	67	40	10	1	1	2	2	11
平成27年	53	32	7	1	2	1	2	8
令和2年	36	23	4	2	1	-	1	5

◇農林業センサスより

(c) 農産物販売金額規模別経営体数の推移

(単位：経営体数)

区分	販売のあった経営体数	50万円未満	50万円以上 300万円未満	300万円以上 500万円未満	500万円以上 1,000万円未満	1,000万円以上
平成22年	67	41	19	1	4	2
平成27年	53	34	13	2	3	1
令和2年	36	12	17	4	2	1

◇農林業センサスより

(d) 農産物販売金額 1 位の出荷先別経営体数の推移 (単位：経営体数)

区分	販売のあった経営体数	農協	集出荷団体	卸売市場	小売業者
平成 22 年	67	13	18	9	8
平成 27 年	53	5	7	8	18
令和 2 年	36	2	10	4	8

食品製造・ 外食産業	消費者に 直接販売	その他
-	15	4
1	10	4
1	10	1

◇農林業センサスより

(e) 借入耕地のある経営体数と借入耕地面積の推移 (単位：経営体数、ha)

区分	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	11	4	9	4	2	0
平成 27 年	8	4	5	3	4	1
令和 2 年	10	18	7	16	6	2

◇農林業センサスより

(f) 貸付耕地のある経営体数と貸付耕地面積の推移 (単位：経営体数、ha)

区分	計		田		畑	
	経営体数	面積	経営体数	面積	経営体数	面積
平成 22 年	11	5	2	0	9	5
平成 27 年	11	7	4	2	8	5
令和 2 年	5	4	2	3	3	1

◇農林業センサスより

(3) 立地条件及び農業生産の特色

市の中心部に位置し、耕地面積の割合は田 6 割、畑 4 割となっていますが、大部分が市街化区域内にあり、農業への依存度は低く、露地野菜・花き栽培が点在して行われています。

(4) 主に生産されている農産物

野菜、花き

(5) 振興方向

都市的土地利用との調整を長期的かつ計画的に図りながら、都市緑化空間や防災空間としての役割も踏まえ、現在、定着している作物の省力・低コスト生産を促進します。

(6) 振興する農産物

野菜、花き